

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

表層で29℃以上となっている地点があり、全地点において28℃以上となっています。

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最大1細胞/mL確認されました。また、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最大0.12細胞/mL、下痢性貝毒の原因種とされるディノフィシス属が最大1細胞/mL確認されました。

柱状採水（0～10mの海水をひととめに採水）した海水では、魚類に対して有害なコクロディニウム・ポリクリコイデスが青瀬山で0.02細胞/mL、シャットネラ属が青瀬山で0.03細胞/mL、ヒロウラで0.02細胞/mL、麻痺性貝毒の原因種とされるギムノディニウム・カテナータムがヒロウラで0.37細胞/mL、下痢性貝毒の原因種とされるディノフィシス属が栄喜奥で0.01細胞/mL、青瀬山で0.04細胞/mL、ヒロウラで0.05細胞/mL確認されました。

アレキサンドリウム属、ギムノディニウム・カテナータムおよびディノフィシス属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、養殖魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ディノフィシス 属
	(m)	(℃)		(mg/L)				
A 藻津 (-/36.6m) 【09:03】	0	28.8	33.4	6.5	0	0	0	0
	2	28.8	33.5	6.5	0.02	0	0	0
	★ 5	28.7	33.5	6.4	0	0	0	0
	10	28.6	34.0	6.0	0	0	0	0
	15	28.5	34.1	6.3	-	-	-	-
	20	28.4	34.0	6.0	-	-	-	-
B 大島中央 (-/32.2m) 【09:11】	0	28.8	33.5	6.2	0	0	0	0
	5	28.6	34.0	6.1	0	0	0	0
	★ 10	28.5	34.0	5.8	0	0	0	0
	15	28.4	34.0	5.5	-	-	-	-
	20	28.4	34.1	5.7	-	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/48.6m) 【09:20】	0	28.7	33.8	6.4	0	0	0	0
	5	28.7	34.0	6.4	0	0	0	0
	★ 10	28.5	34.0	6.2	1	0	0	0
	15	28.3	34.1	6.4	-	-	-	-
	20	28.3	34.1	6.5	-	-	-	-
D 栄喜奥 (-/11.9m) 【09:37】	0	28.8	33.8	6.6	0	0	0	0
	★ 5	28.9	34.0	6.7	0	0	0	0
	10	28.8	34.1	6.4	0	0	0	0
E ヒロウラ (-/25.3m) 【09:56】	0	29.2	33.8	6.7	0	0	0	0
	2	29.1	33.9	6.4	0.03	0	0.12	0
	★ 5	28.8	34.0	6.2	0	0	0	0
	10	28.5	34.0	5.5	1	0	0	0
	15	28.4	34.1	5.8	-	-	-	-
	20	28.3	34.1	5.4	-	-	-	-

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ディノフィシス 属
F 青瀬山 (-/16.6m) 【09:44】	0	29.2	33.5	6.3	1	0	0	1
	5	28.9	34.0	6.5	0	0	0	0
	★ 8	28.8	34.1	6.4	1	0	0	0
	10	28.7	34.1	6.4	0	0	0	0
	15	28.7	34.1	6.3	-	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

貝毒原因プランクトンのモニタリングのため、藻津及びヒロウラの0m、2m、5mの深度から採水した海水の濃縮検鏡を実施しています。

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp)においてもご覧いただけます。

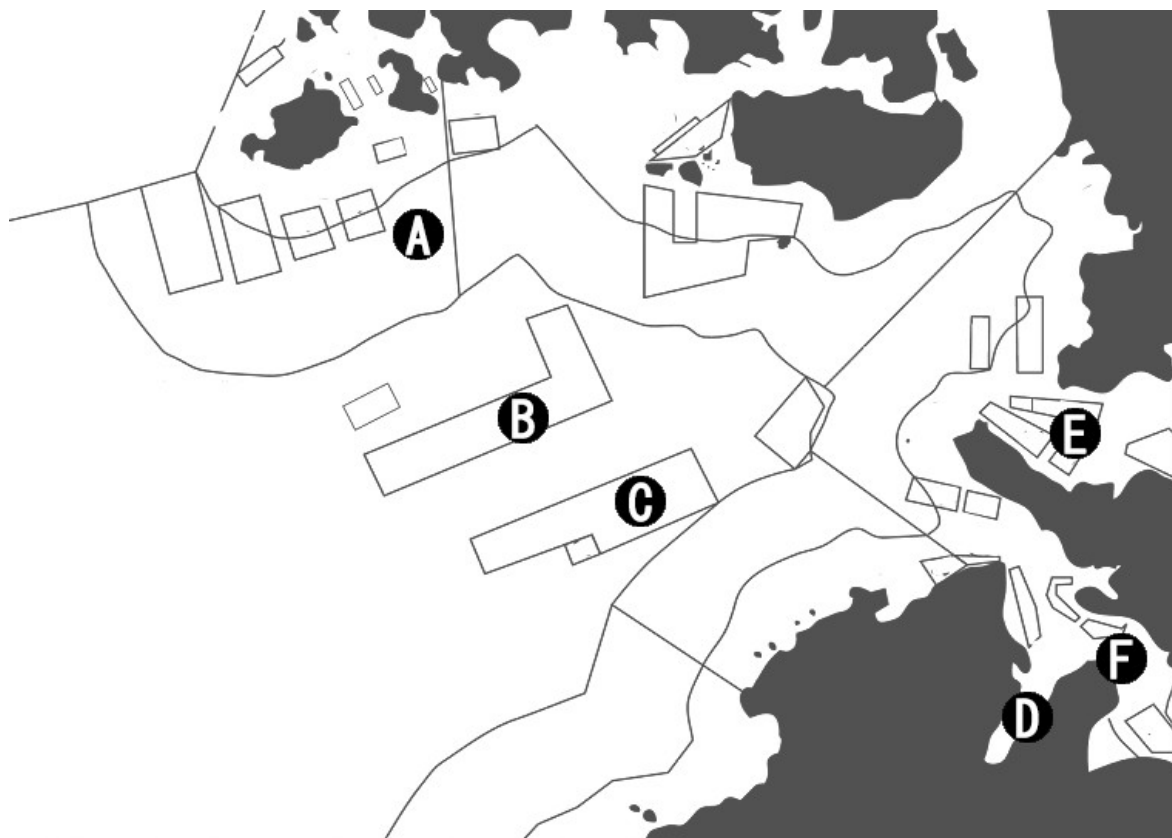
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—
コクロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	3～5月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 藻津

B: 大島中央

C: 小筑紫中央

D: 栄喜奥

E: ヒロウラ

F: 青瀬山

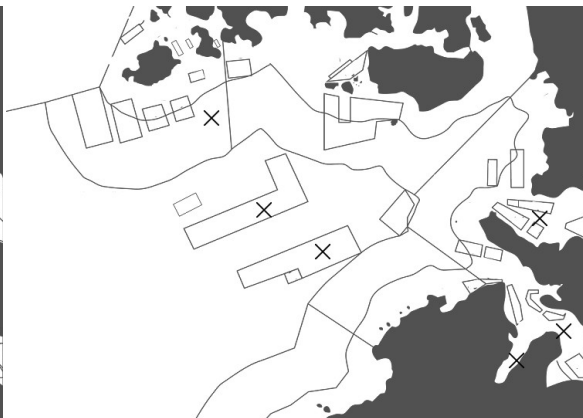
シャットネラ属

最大細胞密度



コクロディニウム・ポリクリコイデス

最大細胞密度



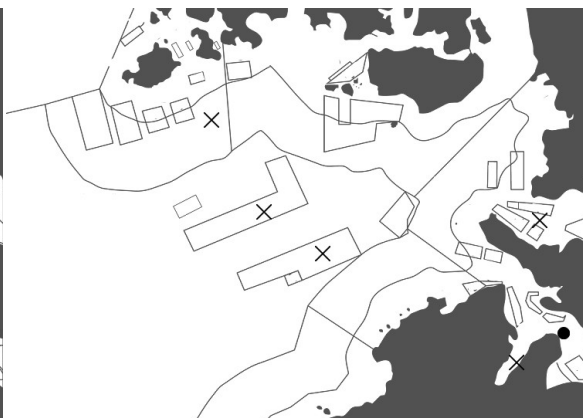
アレキサンドリウム属

最大細胞密度



ディノフィシス属

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。

0

x

1~9

10

100

1,000

10,000

100,000

300,000

注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

